

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会
第 7 回建設専門部会 会議概要

1 .開催日時	平成 1 9 年 1 2 月 2 0 日 (木) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 6
2 .開催場所	福岡市役所 1 5 階 第 5 会議室
3 .出席者	(正副部会長以外は五十音順) 松藤康司部会長、浦邊真郎委員、包清博之委員 槇田裕之委員(委任状提出) オブザーバー 福岡市 計画課長、他 2 名 春日市 環境課長、他 1 名 大野城市 リサイクル推進課長 太宰府市 環境課長 那珂川町 環境防災課長
4 .欠席者	神野健二副部会長、槇田裕之委員、村山博俊委員
5 .議 題	議題 1 中間処理施設の稼働状況・維持管理に関する評価について 議題 2 今後のスケジュールについて

議題 1 中間処理施設の稼働状況・維持管理に関する評価について	
【協議内容】 ●評価対象方式は、第 6 回専門部会の協議結果の通り、次の 7 方式とする。 ストーカ式 ストーカ式 + 灰溶融炉 流動床式 流動床式 + 灰溶融炉 ガス化溶融施設 ガス化改質施設 メタンガス化施設 ●ハードル方式の評価項目は、第 5 回専門部会の協議結果の通り次の 4 項目とする 建設用地に収まること 現行ごみ収集方式で処理できること 稼働実績が十分あること 県・市・町・組合の方針遵守 (節水など) ●ハードル方式での評価としては、7 つの処理方式について検討を行った。 流動床式 + 溶融炉 メタンガス化施設については国内実績が少なくハードル方式評価項目 に抵触し、 ガス化改質施設は上水使用量が過大でありハードル方式評価項目 に抵触するため、 ハードル方式での評価は「不可」とする。 流動床式は、過去の実績はあるためハードル方式で の評価は可となったが、最近では実績が無く、メーカーでは ガス化溶融施設の 1 方式である流動 床式ガス化溶融施設へ移行しており、評価に必要な評点項目についてメーカーから回答が得られ なかったため、評点評価方式の対象外とする。	

ストーカ式、 ストーカ式＋灰溶融及び ガス化溶融施設は、ハードル評価項目全てに問題ないため、「可」とし、評点評価方式で比較検討する。

- 評点評価方式については、第5回専門部会の決定通り、大項目の重み付けを次の通りとする。
適正で安定的な処理・処分(30/100) 信頼性と安全性の確保(30/100) エネルギーの効率化を含む環境への配慮(20/100) 経済性(20/100)とする。
また、評価項目は25項目とし、項目毎の採点基準を3段階評価（優れている：5点、普通：3点、劣っている：1点）とすることを再確認した。
- 評点評価の対象方式は、ガス化溶融施設が3方式あることから次の5方式とする。
ストーカ式 ストーカ式＋灰溶融 シャフト式ガス化溶融方式 流動床式ガス化溶融方式 キルン式ガス化溶融方式
- 評定は各委員評価票に点数及び意見を記入し、事務局で集計を行い、次回第8回専門部会で評価を取りまとめる。

議題2 今後のスケジュールについて

【協議内容】

- 第8回専門部会を1月に開催し、評価をとりまとめ、意見書を作成する。
検討委員会への意見書提出は2月とする。